

それぞれの環境に少しずつ慣れ、自分の好きな遊びを見つけて遊べるようになってきました。前回のたよりでは、杜協園の教育・保育理念、目標、方針と方法、保護者・地域支援についてご説明しました。今回は、その保育の方法を詳しくご説明したいと思います。

☆0・1・2 歳児の育児担当制☆

育児担当制とは、家庭のお母さんに代わり、園のお母さんとして特定の大人が特定のお子さんをお世話する事です。遊びは、複数の保育士で関わりますが、食事の介助と育児行為(着脱やオムツ交換)は、一年を通して決まった保育士が関わります。そうする事で、園のお母さんとしていつも同じ関わりが可能となります。

☆育児担当制との出会い☆

平成 26 年に、当時の園長が県外の園へ見学に行きました。保育園を感じさせない綺麗なセンスある保育室に、数多くの玩具が子どもたちの手の届く位置にあり、子どもが好きな遊びを自分で選び、集中して遊び込む姿に驚いたと聞いております。

0・1・2 歳児の育児担当制は、一対一で関わる丁寧な食事介助や着脱の様子を見学しました。優しい眼差しに見守られ、子どもの人権を最優先にした関わりに、涙がこぼれた様です。当時、複数の子どもを同時に保育していた私たちには、衝撃的でした。流れるような日常と変わらない環境の中で、信頼し合える大人と関わる時間が「安心できる空間」を物語っていました。日本国内にこのような保育がある事を恥ずかしながら、初めて知ったと同時に、この保育がしたい！と強く感じました。

都城へ帰り、まずは、0・1・2 歳児の食事を少人数ずつ食べる事からはじめました。それと並行して、各年齢の室内へオープン棚を置き、数年かけて多くの玩具を揃えてきました。平成 26 年当時に関わりを持たせていただいた吉本和子先生には、現在も子どもへの関わりや遊びの展開を御指導頂いております。



☆なぜ、育児担当制なの？

いつもお世話をしてくれる大人が決まっているということは、まず、お子さんの情緒の安定に関係してきます。

子どもは、大人のやさしい眼差しに見守られているので、困ったときに大人を見ればすぐにどうしてほしいか分かってもらえるし、助けてもらえます。ですから、育児担当制は子どもの内面を支える事にも適しています。目に見える運動発達と違って、内面の発達は見えにくいものですが、特定の大人が関わり受け入れることで、時にはわがままを言える家庭により近い関係性の中で、子どもの内面の発達を支えていくことができるのです。



☆子どもの意思を尊重します☆

0・1・2歳児は、着替えと食事を毎日、担当保育士と一対一で行います。一緒に服を選んだり、ゆっくり話をしたりできる時間は、子ども、保育者と双方にとって貴重な空間です。毎日の関わりが信頼関係を深め、より強い愛着関係を作っていけるのです。食事も、毎日子ども達の目の前で、盛りつけます。献立を知らせ、食べる量を尋ねる事で、自分の食べきる量をきちんと伝えられるようになり、自己選択できる力が自然と身についていきます。自己選択できる力は、0歳児の赤ちゃんもしっかり持っています。それぞれ発達にあった玩具を選択し、子どもが、手に取りやすい場所へ配置する事で、自分の好きな玩具を選択し、遊べるようになっていきます。「遊びを選択する」経験が、生きていく中で必ず役に立ちます。安心できる環境だと思った赤ちゃんは、少しずつ大人から離れて遊べるようになっていきます。時に安心できる大人の存在を確認しながら、遊ぶ事を繰り返していくのです。

☆朝の準備の御協力ありがとうございます。

朝のお忙しい時間帯に、準備の御協力本当に感謝致します。以前は、園児全員分の準備に、保育者の手が長い時間をとられ、丁寧な関わりが難しい状況にありました。朝の準備をご家庭へお願いする事で、保育者が子どもと関わる時間を、十分に確保できるようになりました。一人ひとりの遊びや思いに寄り添い、好きな遊びを知る事で、個々にあった関わりが可能となりました。子どもの遊びを丁寧に観察できる事で、一人ひとりの身近な経験が遊びへと繋がっています。今後も、子ども達が安心して遊びこめる環境と質の高い遊びと一緒に経験していきたいと思っています。引き続き御理解、御協力をお願い致します。

